

2019～20シーズン
アルペンコンペティションセミナー

ルールについて

2019年8月24日(土)

於:明星学苑

(一財)東京都スキー連盟 競技本部



ルールの種類

アルペン競技においては、ICR以外に複数の特別ルールがあります。

1. I C R

2. P r e c i s i o n

3. P o i n t R u l e

4. E q u i p m e n t

5. S p e c i a l r u l e s

国 際 競 技 規 則

新決定事項:南半球版と北半球版年2回発行

ポイントルール

競技用品ルール

各カテゴリの特別ルール

オリンピック冬季大会、FISアルペン世界選手権大会、
ワールドカップ、コンチネンタルカップ… . E t c



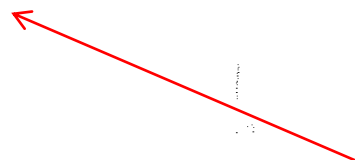
**THE INTERNATIONAL SKI COMPETITION
RULES (ICR)**

**BOOK IV:
JOINT REGULATIONS FOR ALPINE SKIING**

DOWNHILL
SLALOM
GIANT SLALOM
SUPER-G
COMBINED EVENTS
TEAM EVENTS
PARALLEL EVENTS
KO EVENTS

APPROVED BY THE 48th INTERNATIONAL SKI CONGRESS,
KANGWONLAND (KOR)

EDITION JULY 2012



EDITION JULY 2012

アルペンスキーの種目

- 滑降(ダウンヒル:DH) ICR700
- 回転(スラローム:SL) ICR800
- 大回転(ジャイアントスラローム:GSL) ICR900
- スーパージャイアントスラローム(スーパーG)
ICR1000
- コンバインド(クラシカル、スーパー) ICR1100

コースセットについて

	SL:回転			GS:大回転			SG:スーパー大回転
標高差 (FIS、国内A級、B級)	男子	女子	ユース	男子	女子	ユース	ユース
	140m～ 220m	120m～ 200m	K2(K1) 100～160	250m～ 400m	250m～ 400m	K2 160～350 (K1 140～300)	K2 250～450 (K1 250～400)
ターン数 (標高差)	30～35% +- 3		32～38% +- 3	11～15%		13～18%	8～12%
旗門の幅	4m～6m			4m～8m			6m～8m:オープン 8m～12m:クローズ
旗門間の距離	ターニングポール間 6～13m バーティカルコンビ ネーション0.75～1m ディレイドゲート12m ～18m		ターニング ポール間 7m ～11m。 ディレイドゲー ト12m～15m	10m以上		10m以上、 MAX27m	ターニングポール 間 25m以上、旗門 のコンビネーション は15m以上

2019/2020 ユースSAJ公認レース年齢区分

小5	小6	中1	中2	中3	高1早生	高1～高3
K1(FIS U14ルール)		K2(FIS U16ルール)				FIS(U18)

※全種目で軽量ポール(25～28.9mm)使用すること。

SAJ B級・国体

2019～20 K1・K2 SAJポイントについて

SAJカテゴリー	レースレベル	ミニマムペナルティ	マキシマムペナルティ
SAJ A /B (K2)	5	50.00	999.00
SAJ A (K1)	6	70.00	999.00
種目	F 値	レースレベル1～5 マックスポイント	レースレベル6(K1) マックスポイント
SG	1190	250	330
GS	1010	200	310
SL	730	145	280

FIS: 菅平男子GS 資料1



ALPINE SKIING

2011/2012

12ème LISTE DES POINTS FIS - 12th FIS POINTS LIST - 12. FIS PUNKTELISTE

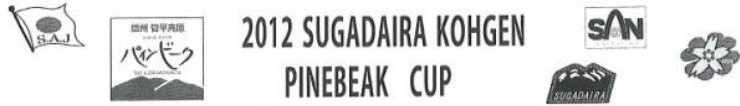
Valid from 26.04.2012 to 16.05.2012

Category/Categorie/Kategorie	Race level	Minimum penalty	Maximum penalty
QWG WSC WC	0	0	0
COM	0	0	4
WJC ANC EC FEC NAC SAC UVS ECOM	1	6	999
NC	2	8	999
YOG FIS JUN NJC NJR CIT UNI CORP	3	9	999
ENL	4	40	999

MEN					GENERAL		LADIES						
ADDER				Z-Value	Men/Ladies		ADDER				Z-Value		
Dis.	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4		F Value	Max points	Dis.	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4	
DH	0	2	3	13	0.00	1330	310	DH	0	2	3	13	0.00
SL	0	2	3	13	0.00	610	145	SL	0	2	3	13	0.00
GS	0	2	3	13	0.00	670	200	GS	0	2	3	13	0.00
SG	0	2	3	13	0.00	1060	250	SG	0	2	3	13	0.00
SC	0	2	3	13	0.00	1130	250	SC	0	2	3	13	0.00

FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE SKI
INTERNATIONAL SKI FEDERATION
INTERNATIONALER SKI VERBAND

FIS:菅平男子GS 資料2



2012 SUGADAIRA KOHGEN PINEBEAK CUP

MEN GIANT SLALOM PENALTY CALCULATION

THE BEST 10 AFTER FINISH

PL	ST No	CODE No	COMPETITORS SURNAME+NAME	NAT	FIS POINTS	BEST 5	RACE POINTS
1	7	302592	TAKIGUCHI Shohei	JPN	31.63	31.63	0.00
1	3	303696	KOHNO Kyosuke	JPN	30.29	30.29	0.00
3	8	303315	FUSE Takashi	JPN	29.60	29.60	1.95
4	6	303789	YUKI Tomohiro	JPN	33.81	33.81	2.09
5	33	304544	HIROSHIMA Seiya	JPN	45.93		
6	23	303322	SHIMIZU Dai	JPN	42.61		
7	56	303823	HAYASHI Raisei	JPN	63.46		
8	10	303408	KUMAGAI Goh	JPN	35.12	35.12	6.20
9	1	303591	MIKAMI Masato	JPN	37.72		
10	37	304320	OHYAMA Ryu	JPN	48.37		

THE BEST 5 AT START

RACE RESULT	ST No	CODE No	COMPETITORS SURNAME+NAME	NAT	FIS POINTS
3	8	303315	FUSE Takashi	JPN	29.60
1	3	303696	KOHNO Kyosuke	JPN	30.29
1	7	302592	TAKIGUCHI Shohei	JPN	31.63
4	6	303789	YUKI Tomohiro	JPN	33.81
DNF1	4	304069	SUGAI Kan	JPN	34.28

TOTALS:			
FIS Points of Best 5 at Start (B)	159.61		
FIS Points of Best at Finish in Top 10 (A)		160.45	
Race Points of Corresponding Competitors (C)			10.24

Calculated Penalty (A+B-C)/10=> 30.982

Rounded	30.98
Category Adder	3.00
Correction Value ([-]Z)	0.00
Calculated Penalty	33.98
Minimum Penalty	9.00
Maximum Penalty	999.00
Penalty Applied	33.98

FIS TD KANZAKI NOBUHIKO [JPN] #878

08-02-2012 / SUGADAIRA KOHGEN
DATA PROCESSING by SEIKO

1076 GMR / 1
TIMING by SEIKO



asato	JPN	37.72
yu	JPN	48.37

ORS NAME	NAT	FIS POINTS
ashi	JPN	29.60
osuke	JPN	30.29
I Shohei	JPN	31.63
ohiro	JPN	33.81
n	JPN	34.28

TOTALS:		
FIS Points of Best 5 at Start (B)	159.61	
FIS Points of Best at Finish in Top 10 (A)		160.45
Race Points of Corresponding Competitors (C)		10.24

Calculated Penalty (A+B-C)/10=> 30.982

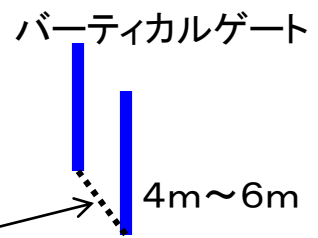
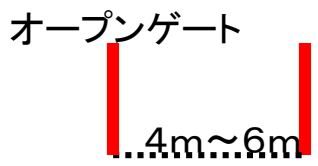
Rounded	30.98
Category Adder	3.00
Correction Value ([-]Z)	0.00
Calculated Penalty	33.98
Minimum Penalty	9.00
Maximum Penalty	999.00
Penalty Applied	33.98

KANZAKI NOBUHIKO [JPN] #878

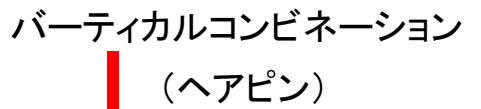
1076
TIMIN

コースセット(ゲート構成)

【回転】



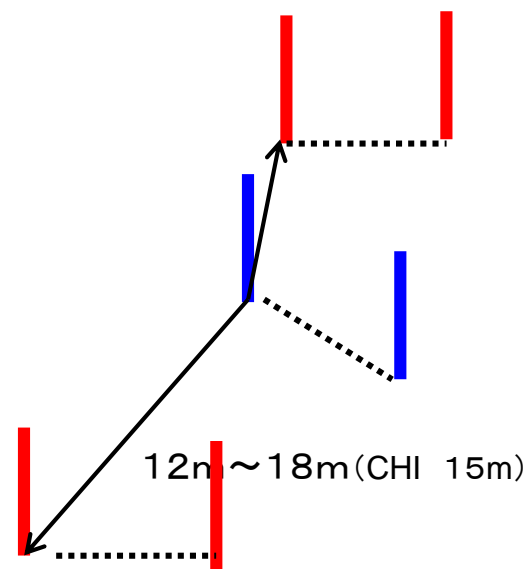
旗門線



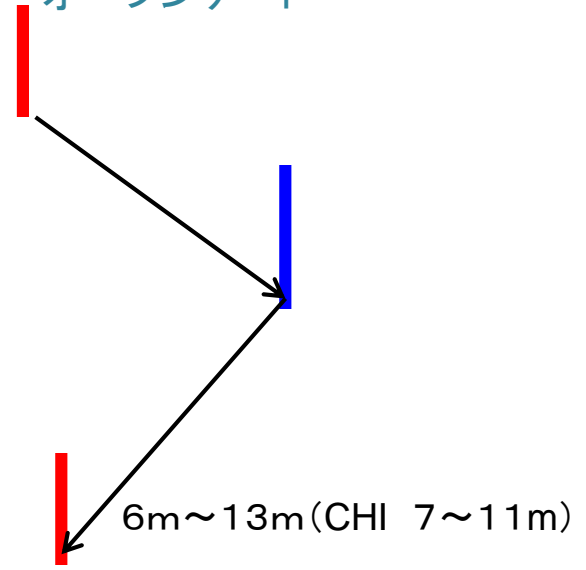
0.75m
~1m

4m~6m

ディレイドターン

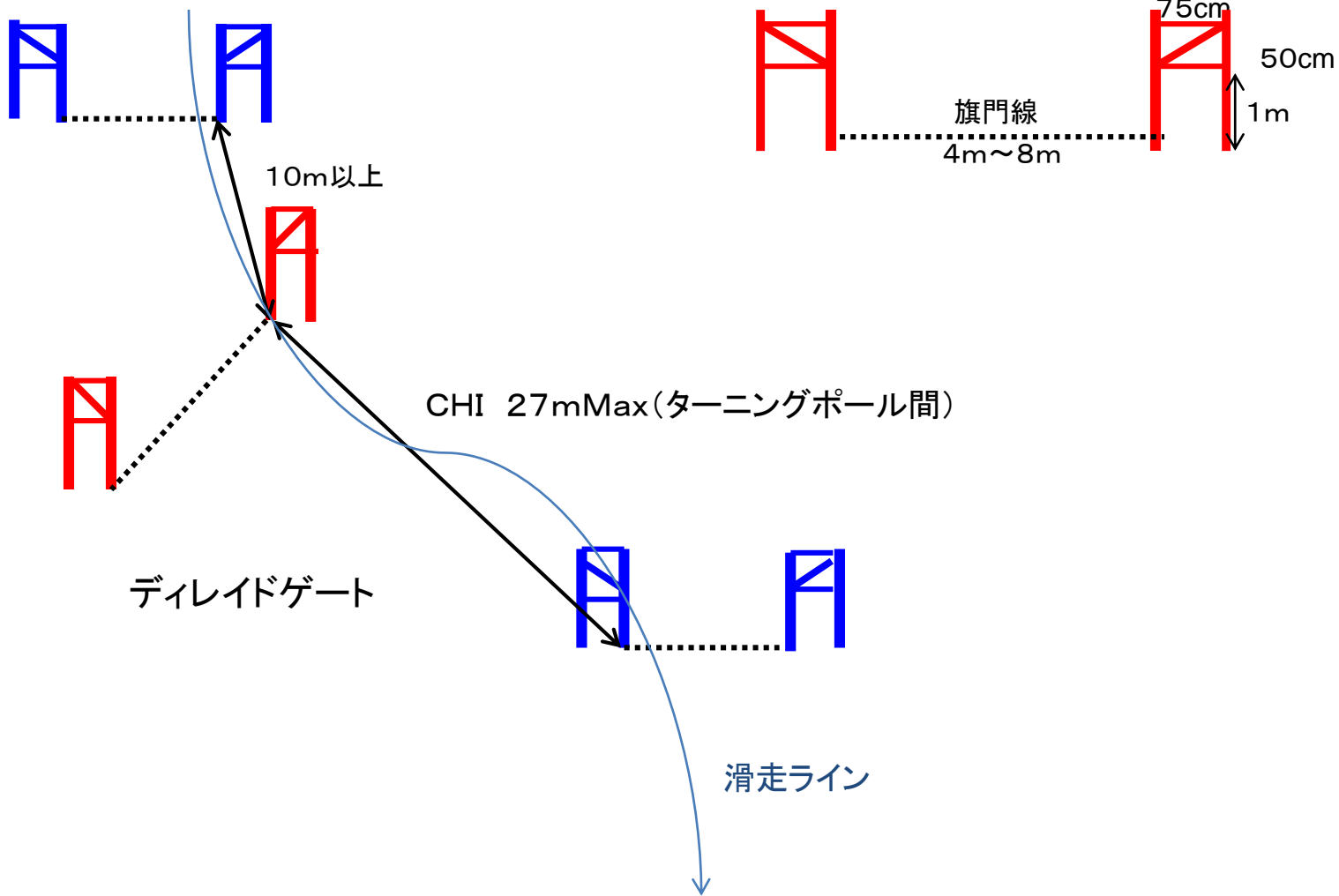


オープンゲート



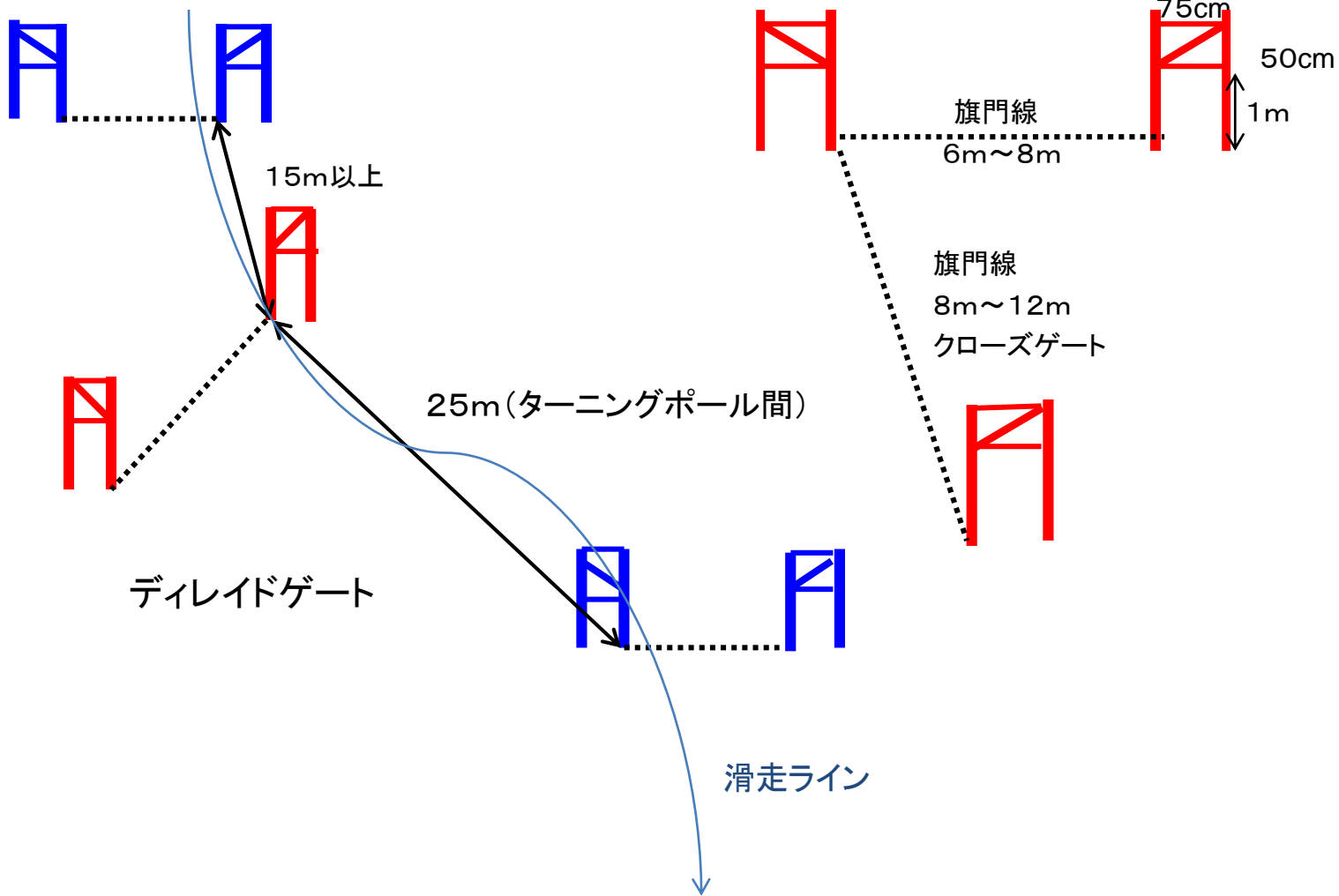
コースセット(ゲート構成)

【大回転】



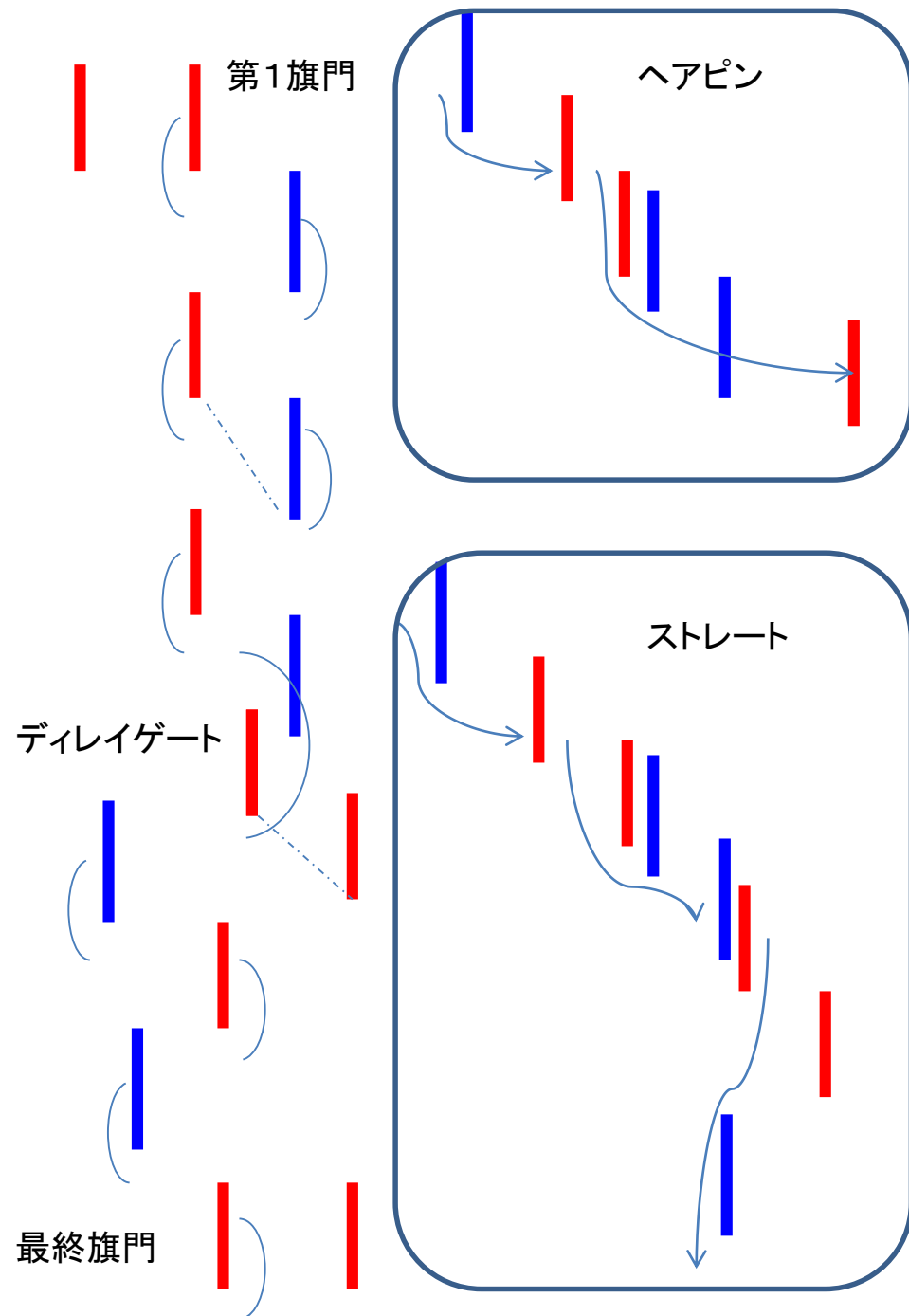
コースセット(ゲート構成)

【スーパー大回転】



シングルゲート(SL、GS)

- シングルゲート(SL、GS)はアウトサイドポールを持たない。但し、第一旗門及び最終旗門、ディレイゲート(GS、SL)、コンビネーション(ストレート、ヘアピン:SL)は例外である。
- 801. 2. 3
- コンビネーション内(ヘアピンやヴァーティカル)旗門の距離は、0.75m~1m以下でなければならない。ヘアピンやヴァーティカルコンビネーション内の旗門はストレートラインでセットされなければならない。



失格について

- スタートでのルール違反
第三者の力を借りてスタートする。フライングをする
(前後5秒)
- コース中でのルール違反
正しい旗門通過をしていない(継続の禁止)、他の
選手の滑走の妨害をする等(スイッチバック禁止等:
GS)

旗門の通過

661.4 正確な通過

661.4.1 選手の両スキーの先端と両足が旗門線を横切ったとき、旗門を正確に通過したことになる。

例えば、スラロームポールをまたぐといった不通過となる行為をせずに、選手の片方のスキーが外れてしまった場合は、もう片方のスキーの先端と両足が旗門線を通過しなければならない。

このルールは、選手が旗門まで登って戻らなくてはならない場合にも有効である。

661.4.1.1 滑降、大回転、スーパーGの旗門線は、フラッグでつながったポール2組から成る旗門のインナーポール間の雪面最短線である。

(第661条、Fig. 1)

661.4.1.2 回転の旗門線はターニングポールとアウトポール間の雪面最短線である。

(第661条、Fig. 2)

661.4.1.3 選手の両スキーの先端と両足が旗門線を通過する前に、垂直に置かれたポールを選手が移動させてしまうことがあっても、両スキーの先端と両足で正規の旗門線を通過しなければならない。(雪上へのマーキング)

661.4.2 パラレルスラロームでは、両スキーの先端と両足がゲートマーカの外側をターンの方向に通過したとき、正確な通過となる。

(第 661条 Fig. 3)

シングルゲート競技における通過判定？

SLにおいては、ターニングとターニングポールを結ぶラインを通過ラインとして選手の通過判定を行う。

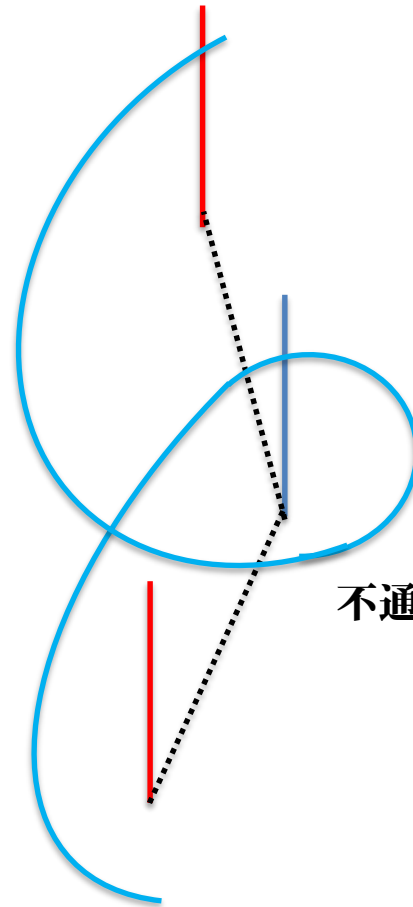
GSにおいては、ターニングゲートのターニングポールとターニングポールを結ぶラインを通過ラインとする。

通過ライン

通過ライン

通過ライン

通過ライン



不通過の際の通過方法

Crossing the finish line

615.3 Crossing of the Finish Line and Recording of the Times

The finish line must be crossed:

- on both skis or
- on one ski or
- with both feet in case of a fall between the last gate and the finish line. In this case the time is taken when any part of the competitor's body ~~or equipment~~ stops the timekeeping system.

615.3 フィニッシュラインの通過とタイムの記録

フィニッシュラインは、次のように横切らなければならない：

- 両方のスキーで。または、
- 片方のスキーで。または、
- 最終旗門とフィニッシュラインの間で転倒した場合、両足。この場合、選手の身体または用具のどこかの部分が、計時システムをストップした時にタイムが計測される。

継続の禁止 = interdiction

Interdiction to continue

614.2.3 *Interdiction to Continue after a competitor stops*

If a competitor comes to a complete stop (e.g. after a fall), he must no longer continue through previous or further gates. This interdiction is valid in all events with a fixed start interval (DH, SG, GS). Only exception is for SL (art. 661.4.1), as long as the competitor:

- does not interfere with the run of the **next following** competitor or,
- has **not** been passed by **the next a** competitor.

614.2.3 選手が止まった後の継続禁止

選手が完全に止まった場合（例：転倒）、その選手は、前の旗門やその後の旗門を続けることはできない。この禁止は、固定したスタートインターバルがあるすべての種目（DH、SG、GS）に有効である。SLにおいては以下の条件で例外とする。（661.4.1）~~、その選手が後続選手の滑走を邪魔しない、または、選手に抜かされない限り、スラロームは例外である（661.4.1）。~~

- ~~その選手が~~後続選手の滑走を邪魔しない、または、
- 次の選手に抜かされ**てい**ない**限り**、~~スラロームは例外である（661.4.1）。~~

再レースについて

- ICR623 レース中に妨害を受けた選手は、妨害発生後直ちに停止し、ジュリーメンバーに再レースを申し出なければならない。この申し出は、妨害を受けた選手のチームキャプテンが行うこともできる。

- **妨害の根拠**

- ☆役員、観客、動物、その他障害物によるコース遮断

- ☆転倒した選手がすぐにコースを空けなかった場合のコース遮断

- ☆前の選手が落としたスキーポールやスキー等のコース上の障害物

- ☆選手を妨害する救急活動

- ☆前の選手が倒したり、すぐに元通りにしなかったため、旗門がない状態

- ☆選手の意思やコントロールではカバーできないような、その他の類似の出来事で、明らかに減速せざるを得なかったり、滑走ラインが長くなったりして、タイムに影響を及ぼすことになる出来事

- ☆計時システムの不調

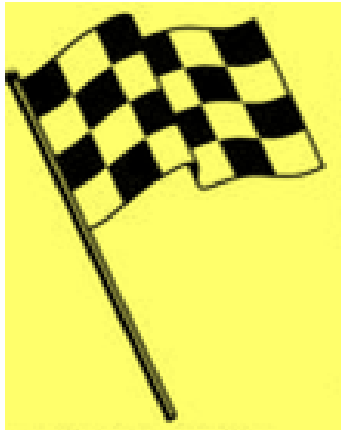
640 **抗議**
640.1 ジュリーは、物的証拠に基づいた抗議のみ受け付けなければならない。

641 **抗議の種類**
641.1 選手の出場または選手の競技用品に対して
641.2 コースまたはそのコンディションに対して
641.3 競技中、他の選手または役員に対して
641.4 失格に対して
641.5 計時に対して
641.6 ジュリーの指示に対して

643.4 失格に対して：
失格の発表後 15 分以内
643.5 計時に対して：
非公式リザルトの発表後 15 分以内

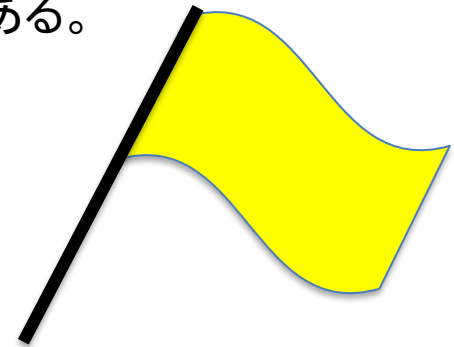
抗議の方法

644.1 抗議はルールとして、書面で提出する。
644.2 例外として641.3・641.4・641.5は口頭でも可能である。
644.3 抗議には詳細な理由を記し、実証されなければならない。証拠を示し、証拠物件を添付しなければならない。
644.4 抗議の提出の際、100スイスフランまたは有効通貨の相当額をデポジットとして払わなければならない。このデポジットは抗議が受け入れられれば返却される。



GS競技でもイエローフラッグを使用する場合があります。

高速化するGS競技において、安全性を深めるために、ジュリーの判断でイエローフラッグを設置する場合があります。



選手はイエローフラッグが降られた場合、直ちに停止し、再レースのためにスタートに戻る。

H26 山形蔵王国体



2019～20 マテリアルルール(抜粋) 1/2

マテリアルルールの変更は選手の安全等を考慮し、FISが適時変更をしている。

	SG	GS	SL
ビンディング下部分のもっとも細い部分の幅	65mm以下 シニア・ユース共通	65mm以下 シニア・ユース共通	63mm以上 シニア
スキー高	50mm以下	スキー板+プレート+ビンディング 全種目、全カテゴリ、男女共通	
ブーツ高	43mm以下	ヒール底部からインナーソールまでの間隔 全種目、全カテゴリ、男女共通	
ワンピース	FIS 新規格適合スーツには適合ラベル【CS2015】が表記される。		

2019～20 マテリアルルール(抜粋) 2/2

マテリアルルールの変更は選手の安全等を考慮し、FISが適時変更をしている。

種目	SG				GS				SL				
	女子		男子		女子		男子		女子	男子			
	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	スキー長			
FIS/NC	200	40	205	45	183	30	188	30	155	165 * 1			
A級	200	40	205	45					155	165 * 1			
国体													
B級	200	40	205	45					155	165 * 1			
K2	スキー長175 ラディウス27 SAJスキー長183 ラディウス30以上推奨				スキー長188以下 ラディウス17				130				
K1	スキー長・ラディウス共に体格、体力、 技能に適応したスキー				スキー長130 ラディウス14 SAJスキー長188以下 ラディウス17以上								

表記の数値は最小値。スキー長(cm)、ラディウス(R)

* 1 U18の1年目(2001生まれ)はSLにおいて-10cmの許容差を認める。

2019～20 GS / SG / DH ヘルメットルール

安全性に対する新たな基準を満たしたヘルメットには、以下のシールが製造メーカーによって貼付される。



全てのFIS、SAJ A級、B級、ユース(A級、B級)新規格対応表示(FISステッカー【RH2013】)が明示されているヘルメットの着用を義務とする。

公式用品ルール6.2.4によりヘルメットにはメーカー公式付属品以外の装着は禁止とする。

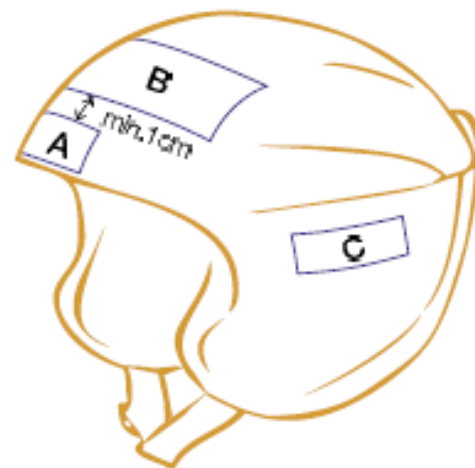
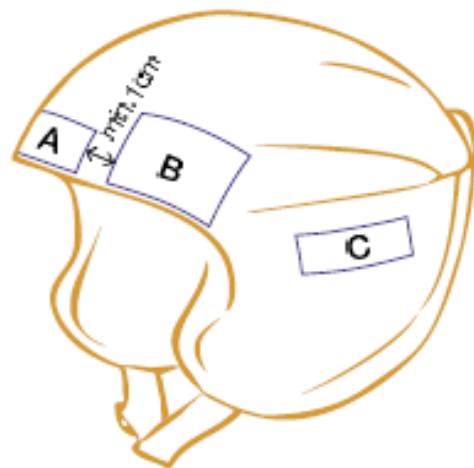
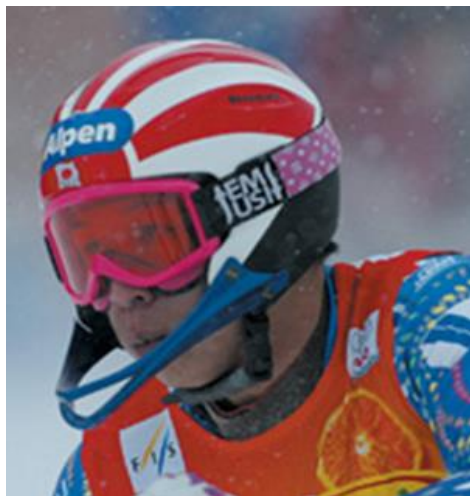


SL

耳の部分がソフトな素材を使う物も仕様が認めれる。

FISレースではEN1077またはASTM2040認証が必須である。

SAJレースは推奨。



コマーシャルマーキングも大切な守るべきルールです。

「A」はナショナルエンブレムの貼付位置。(必須)

「B」はスポンサーバナー、

左は 2スポンサー(25mm² × 2カ所)、

右は 1スポンサー(50mm² × 1カ所)。

貼付位置はナショナルエンブレムの位置を基準にし、
1cm以上離す。

「C」はヘルメットの製造メーカーバナー。

この選手の着用しているものは違反になりますが
競技会場でのルールですから、参考例までに

TCM、ドロー



ボードコントロール



ドロー



コンピュータードロー



ビブ配布



入賞した選手は必ず表彰式に参加する。

ご清聴ありがとうございました。